

即興演奏を用いた障害者の社会参加に関する研究

代表者

沼田里衣（ぬまたりい） 都市研究プラザ・テニユアトラック特任准教授

共同研究者

上野智子 和歌山大学 教育学部 准教授 研究分担者（音楽教育）

菅道子 和歌山大学 教育学部 教授 研究分担者（音楽教育）

山崎由可里 和歌山大学 教育学部 教授 研究分担（特別支援教育）

概要

本研究は、即興音楽を用いたコミュニティ活動における研究と、特別支援学校における音楽プログラム開発の研究を融合させ、学齢期以降の障害者を対象とした異年齢プログラムにおけるインクルーシブな音楽活動の開発を目的とするものである。昨今、少子化による児童生徒数の減少にもかかわらず特別支援教育を必要とする児童生徒数の増加傾向にあり、教師と教師以外の専門家との連携協力が求められている。一方で、学齢期を終えた障害者の社会参加の問題は、地域生活・職業・文化活動などの様々な場面で課題も多く、昨年の相模原障害者施設殺傷事件とそれに対する社会の反応などは記憶に新しい。こうした状況から、障害の有無や年齢の差異に関わらずに個々の知性、感性、創造性を生かして取り組める音楽プログラムを開発することは、低年齢の障害者やその家族に未来への見通しを提供し、障害のない者にとっても豊かな共生社会の道筋を示すために重要であり、成熟した福祉社会に向けた新たな文化活動の在り方を見出すことに繋がると考えられる。

具体的なプログラム開発に向けては、絵本、図形楽譜、ゲームを使った方法が音楽教育や音楽療法の領域においては蓄積され始めており、代表者、分担者それぞれが実践研究において成果を出し始めている。代表者は、音楽療法をベースとしたコミュニティにおける即興演奏に関する研究を専門とし、図形楽譜を用いた手法についても検討してきた。特に、障害の有無を問わない即興表現集団「おとあそび工房」における実践研究からは、芸術形態と社会的課題の関連が明らかになりつつある。また、分担者は音楽療法の手法を特別支援教育に応用する研究を行ってきており、特別支援学級、特別支援学校での音楽プログラムの実施や絵本を使った研究成果を既に発表している。本研究は、これらの個々の知見を統合し、具体的なプログラム開発を行うことを目的とする。なお、研究代表者と分担者3名は本研究に向けて既にやりとりを初めており、連携の体制は整っている。